

リハビリニュースNo.51

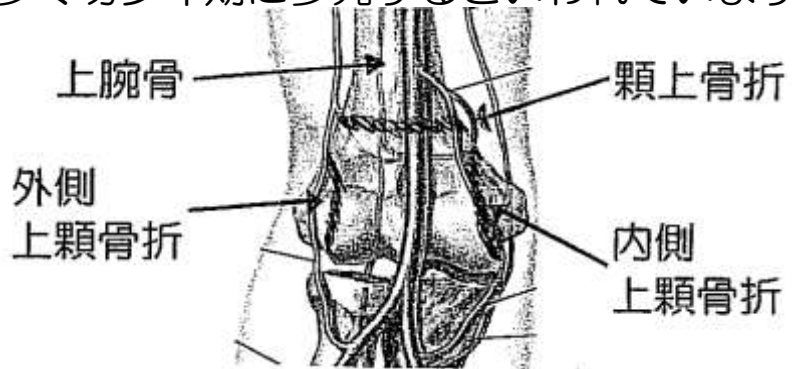
～肘内障、上腕骨顆上骨折、上腕骨外・内側上顆骨折～
 肘内障（橈骨の亜脱臼）は2～3歳の子供の手を両親が急に引っ張ることや、肘関節を捻った際に起こるといわれています。上腕骨骨折では遠位端部が多くを占めるといわれ、上腕骨顆上骨折や外・内側上顆骨折は転倒した際に、肘関節を伸ばした状態で手をついて倒れる（介達外力）場合や、肘関節を曲げた状態で肘をついた（直達外力）場合に起こるといわれています。特に前者が多く幼少年期に多発するといわれています。

《症状》

【共通の症状】

肘関節部に

激しい疼痛
運動障害



【固有症状】

損傷部位	固有症状
肘内障	上肢の下垂（肘関節の脱力感）
顆上骨折	骨折部位の腫脹、発赤、熱感、圧痛などの骨折で起こる症状が挙げられます
外・内側上顆骨折	

《合併症・後遺症》

☆上腕骨顆上骨折

- ・神経損傷（特に正中・橈骨神経）
- ・循環障害 ⇒ 阻血性拘縮
- ・変形（特に内反肘）

☆上腕骨外・内側上顆骨折

- ・偽関節（*外側の場合）
- ・変形（内・外反肘）
- ・遅発性尺骨神経麻痺

↳ *外反肘の変形の場合

《骨折に対する治療法》

整復・手術後の肘関節固定期間は、患部の状態に合わせて徐々に患部外（手・肩関節）トレーニングを行います。固定除去後は、固定により生じた拘縮や筋萎縮を改善するため、肘関節周囲筋のストレッチングと筋力訓練を行います。

肘内障は整復によりすぐに改善しますが、上述の機転で再発しやすいので注意が必要です。顆上骨折・外側上顆骨折は約3～4週間、内側上顆骨折は約6～7週間の固定が必要といわれています。これらの骨折は固定期間のリハビリが予後に大きく影響するので、継続して行うことが大切です。